耐震政策

工務店らが自社のwallstat活用事例を発表
Ver.5が今夏リリース予定
耐震性能見える化協会

耐震性能シミュレーションソフト・wallstat（ウォールスタット）の普及促進に取り組む耐震性能見える化協会（代表理事＝中川貴文・京都大学生存圏研究所准教授）は6月23日、wallstat活用事例セミナーをオンラインで開催した。工務店・関連事業者がwallstatをどう業務で活用しているか、それぞれの事例を発表した。

発表者は七呂建設（工務店）、シンホリ（プレカット事業者）、在住ビジネス（設計サポート）、工務店フォーラム（団体）の4者。七呂建設は、昨年9月のwallstat導入後、許容応力度計算が必要な3階建てなどを除く、全体の8割でシミュレーションを実施する。耐震等級3は前提で、赤やオレンジの、損傷が大きい部分がなるべく少なくなるよう設計している。

シンホリは、取引工務店に対し、シミュレーションとプラン改善提案を行っている。倒壊の恐れがある設計でプレカットを受注しないよう、プラン段階でチェックしている。在住ビジネスでは、シミュレーションの動画を、工務店の販促ツールとして提供。展示場で放映するなどして、営業活動を効率化した工務店もあるという。

工務店フォーラムは、wallstatをクラウド化し、実際の住宅に設置した地震計で損傷を解析するシステムを運用している。設計時には、クラウド上にアップされた解析モデルのファイルで、超高層建築物と同じ解析を自動で行える。

wallstatは、2020年のダウンロード回数が1万回で、総ダウンロード数は4万5000回に達した。現在は、計算時間を大幅に短縮し、中大規模木造建築物にも対応したver.5を開発中。正式リリースは8～9月を予定している。

中川代表理事は今後、ユーザー層拡大を図りたい考えを表明。「現在のwallstatユーザーは大学や構造設計者、プレカット事業者が中心。営業や、施主でも使えるソフトにするのが究極の目標」とし、伏図の入力を省略した「wallstat S（仮称）」について、7月中にベータ版を公開する予定を明らかにした。